

酒田市総合計画審議会 第2回市民生活部会 議事要旨

1. 日時

平成29年2月24日（金）10:00～11:30

2. 場所

酒田市役所 第2委員会室

3. 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 市民生活部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田市市街地コミュニティ振興会連絡協議会会長	小柴 勝	
八幡地域コミュニティ振興会連絡協議会会長	齋藤 文之	
酒田市消費者団体連絡協議会副会長	後藤 キク	
一般社団法人酒田地区医師会十全堂会長	栗谷 義樹	
社会福祉法人酒田市社会福祉協議会会長	阿部 直善	副部会長
酒田市食生活改善推進協議会会長	佐藤 初子	
特定非営利活動法人にこっと理事長	片桐 晃子	
東北公益文科大学教授	武田 真理子	部会長

【事務局】

危機管理監、消防調整監、企画振興部長、地方創生調整監、市民部長、環境衛生調整監、健康福祉部長、建設部長、水道部長兼下水道技監、総合計画策定プロジェクトチーム

4. 議事内容

○事務局より会議の成立について報告

- ・後藤委員より遅れて出席する旨連絡あり、本日の出席委員は8人であり委員定数8人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条の規定により、本日の会議は有効である。

(1) 総合計画審議会委員インタビューの概要

- ・資料2に沿って事務局より説明

(2) 新酒田市総合計画の策定について

・資料1に沿って事務局より説明。

○新酒田市総合計画の策定に対する質疑・意見等

【総合計画全体に関する意見】

(委員) 従来計画の課題解決型と異なり、目標設定型の柱立ては、目標に対しての現状と課題を抽出し政策を立案するという点でわかりやすい。第1章について、「協働」のパートナーを明確に示すべき。例えば、「行政×事業所」、「市民×行政」、「市民×市民」、「行政×市民×事業所」等々。第2章について、付加価値の高い工業製品を作るということは、サービス業等の第3次産業の誘発に繋がるものである。第3章について、移住・定住・観光については担い手の育成が大切。「おもてなし」は「おもいやり」を伴うもの。第5章について、「最大限にひきだす」という表記について私のこれまでの経験では、最大限引き出した結果疲弊することになる。皆が力を少しずつ出し合って、酒田市全体の力を大きくするというイメージ。

(委員) 計画は実行していく中で、色々な問題が浮き彫りになる。第3章に「おもてなし市民会議」を加えるのはどうか。おもてなしする側の市民も勉強しなければならない。

(委員) 新総合計画策定の方向性はわかりやすく、理解できる。基本構想・将来像・理念について、未来会議などで様々なキーワードが出ているが、中心になるものと、そこから派生するものとに整理する必要がある。

⇒ 未整理の状況であり、今後ビジョン検討委員会等で委員と議論していきたい。

(委員) 健康長寿について、介護・医療制度に依存しない健康的な暮らしが大事。それには市民自身の意識改革が必要。おもてなしについて、市民自身が地元のことをもっと勉強する必要がある。

(委員) 体系は見やすくわかりやすい。効果的なシティプロモーションについてだが、ふるさと納税の取り組みなど各自治体で頑張っている。酒田市でも食、観光、あらゆる面で情報発信を強化してほしい。介護予防講座を市が各コミセンで実施してきたが、今後は自治会単位で指導していくと聞いている。自治会単位だと小さい自治会では事業がやりづらいため、住居条件による格差をなくしてほしい。中町にぎわい健康プラザは健康長寿に向けた施設として期待しており、市民にアピールしてほしい。

(委員) 前回の総合計画策定時にも参加したが、改めて計画を見ると目標を少しずつ達成してきていると感じる。5年後10年後の酒田を考えた場合、楽しみな策定案であると感じた。横文字の表現が多く感じる。アセットマネジメントなど、年配の方ではわからないのではないかな。皆にわかりやすいようにお願いしたい。Uターンについてはどこの市町村も頑張っていて、郷土愛に力点を置いていると感じる。未来会議では、中学生、公益大生、移住者等、多種多様な方々が参加し意見を出し合っていた。幅広い世代の市民が参加し、お互いの意見を聴くということは大切なことである。

(委員) 事業を動かす主体となる組織がどこなのかわからない。一方で、誰が動かすのかわからないのに評価方法が書かれている。章、施策ごとに目標数値を設定し、毎年数値目標の

達成状況を公表するとあるが、どのように数値目標を設定し、どのように評価するのかということがこの資料だけではわからない。計画に掲げた事業については失敗する事業が多くてくる。失敗した問題点、原因が何かということ誰がチェックするのか。評価は、うまくいった、うまくいかなかったというものではない。問題点を分析せず、失敗した理由がわからないまま、次に続く対策がでない。このことは総合計画に記載すべきとは思っていないが、失敗した時の原因分析をする仕組みがないと、計画を羅列して終わってしまいかねない。PDCAのAに結びつく手法、仕組みを作ってもらいたい。

⇒ 資料1の2ページの「市民の役割」の部分について、必ずしも市民だけでなく、行政等主体となるものの役割を明確化したいと考えている。評価については、どのようにAにつなげていくのかということ計画の趣旨に盛り込み、手法については別の形で個別具体的に構築していきたい。

(委員) これからの十年間の基本理念となる都市の将来像について、面としてのまちの姿が見えないと、各々の役割を共有できない。今回は市民参画で総合計画をつくることとしているので、こうやってまちづくりをしていくという姿を示し、PDCAのチェックする段階でも市民が参加できる仕組みを作してほしい。酒田らしい総合計画になるのではないか。(資料中の表現を見直すことで読み取れるかもしれないが) 子ども達の姿が見える、子ども達が参画できる計画になるといい。まちの姿は自治会単位なのか、コミュニティ振興会単位なのか。小学校が統廃合していく中で、コミュニティの捉え方を踏み込んで総合計画に表現できないか。人口減少していく中でどのような未来が描けるのか、市民の役割を明確化することで市民協働につながる。

(委員) 地域包括ケアは、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援といった5つの項目が一体的に提供されるもの。医療、介護に関するものが中心と思っていたが、福島県須賀川市の3病院による連携推進法人の包括ケアに、「安心して子供を産み育てられる町を作る」という項目が描かれていました。ケアというものを大きな視点で考えると、安心して子育てができるということはケアの根幹を成す部分である。素晴らしい事業計画と思いましたが、当市の総合計画にも是非入れて頂きたい。

(委員) 子育てを取り巻く環境がこの10年で大きく変化した。母親の働く環境も変化しており、土日、祭日、日中、夜間等の境がなくなっており、働き方、子育てに関係することである。地域環境を整え、地域みんなで見守っていかないと虐待も増え、子どもに対していい影響を及ぼさない。社会全体で子育てをし、高齢者を支えあう酒田があるべき姿であると思う。

(委員) 親の生活スタイルの変化とともに、子どもの生活スタイルも変化している。塾通いや遅い時間での就寝、朝起きれないため朝食を抜く、拒食等々、生活スタイルの変化は食生活にも影響している。家庭環境を見ながら、夏休みにコミセンに子どもたちを集め、学習会を開いたり、遊び方を学んだりする事業を行ったところ好評だった。コミュニティを使った子育て支援、将来的には子どものための食事提供などの事業について食生活改善推進協議会が担うものと言われている。自治会館で夕飯を提供するなど地域で支える事業がスタートしているところもあり、酒田市でも将来行われるのではと考えている。

(委員) 中山間地域は人口減少のスピードが早く、10年後はさらに減少していると思う。その時にどのように支えあっていくか、小さな拠点としてどこが中心になるのか、地域の規模によりコミュニティセンター又は自治会が中心となるところもあるだろう。地域の実情に応じて地域への働きかけを検討すべき。

(委員) コミ振と自治会の関係だが、活動の基本は自治会である。防災、防犯、交通安全などの活動は自治会単位で行っている。コミ振の役割は自治会が行う事業に対する研修会を行うなど側面から協力をするところである。

(委員) 鶴岡市でコミュニティ振興会と自治会の役割をまとめたものがあり、インターネットでも見ることができる。皆さんもわかっているようでわからない部分であり、文字化して議論しあうことも必要と思う。インフラ整備など市が単独で行う事業、市民が主体となって行う事業などあるが、市民が主体となってやるための市の関わり方、支援の仕方など、役割を明確化すべきである。「誰かが作る計画ではなく、我々が作る酒田市」というイメージでまとめてもらいたい。

(委員) 自治会とコミ振の関係については、自治会が主であり、その寄り合いがコミュニティであると思う。地域内の災害等では自治会長の役割が多く、現場で対応ができないこともある。近隣地区の協力体制が大事と思われるので、常日頃から自治会長同士お互い顔合わせ、コミュニケーションをしていることが大切である。子育ての環境も変化しているが、子育て世代の親たちに声をかけることにより近所のつながりができてくる。高齢者への声かけ、見守りも大事だが、子育て中の親や子どもに声をかけ、見守っていくことも大切である。都会に出た若い人たちが帰ってくる、戻ってきたくなるような施策に取り組んでいるが、我々地元にいる者が「地元には何もない」と言っている限り地元に離れた人たちが戻ろうとは思わない。「地元はいいところだ」と自信と誇りを持って言えるように、地元に住んでいる我々が作り、育てて行かなければならない。地元の良いところ知り育てることが大切と思う。

(委員) 明治大学の農山村再生を積極的に論じている小田切先生が、今進行しているのは「誇りの空洞化」であり、地元への誇りを失うことが心配だと言っている。大人が自分たちの住んでいる所が素晴らしい所だと発信できなければ、子どもたちも地元に離れていく。酒田市民が酒田のことを誇りに思えるように、地元について学んでいくことが必要。(まとめとして) インタビューに「基本は地域で必要なことを住民自らが決め、地域でできないことを行政が補完する仕組みを目指していくこと」とあるが、主体の書き方が今回の計画ではポイントになると思う。市民生活部会としては、この部分をどのように示していくのが次回以降の議題になるのではと考える。

○連絡事項（事務局より）

- ・ 質疑・意見等について、追加で意見があれば、事務局へお願いしたい。
- ・ 今後の予定について、3月にビジョン検討委員会、5月に全体会開催。

以 上